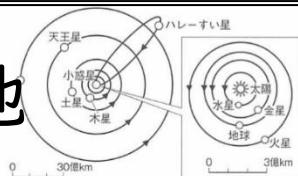


令和 7 年度
第 2 学 年

実 直

中野区立第二中学校
令和 7 年 6 月 27 日
学年通信 13 号

天と地



先週で定期考査Ⅰが終わりました。職場体験の取り組みも後半戦に入るなかで、同時に文化発表に向けた準備も始まり、少し慌ただしい毎日になっていると思います。その中で、何の行事があらうと常に進行していくこと、それは「学習」です。今回は「授業」とはちょっと違った学びについて紹介します。

ちょうど太陽の向きにボールを蹴った。いや、蹴ったボールが太陽の方向と同じだったと言った方がいい。とにかく、それは偶然だった。

2時間目と3時間目の間の中休み、20分間の休み時間をフルで楽しもうと同級生と校庭に出て何も考えずサッカーをしていた。2時間目の小数の割り算が難しかったこととか、4時間目には地元地域についての発表があるとかは気にしないことにしていた。

キーパーをしている僕の横をサッカーボールが通り過ぎネットを揺らす。すかさず自チームの1人が焦りながら「今のはつま先だったからノーカウントね」の声。相手チームも「うわー。マジかー。」で応戦。ローカルルールの確認と、同意の「マジかー。」によってゲームは再開する。僕はゴールの中からボールを取り出し、ボールを高く蹴り上げた。その瞬間「あっ、眩しい…!」ボールが太陽と重なる。強い光が目に入る。違和感を感じる。「あれ?太陽ってあんな位置だった?」

給食の時間、その違和感を友達に話すと「時間が違うからじゃないの?だって、朝と夕方では位置は逆になるでしょ。時間が経って太陽が動いたんだよ。」と友。続けて「でも、休み時間のタイミングは毎日一緒だから時間が経って変わるわけじゃないかも…むずいな」休み時間が毎日同じ時刻に始まるのは全児童が知っている。だって、2時間目が始まった瞬間から、教室の時計を確認して次に「20分を指す時」の中休みの開始を心

待ちにしているのだから。友達は牛乳瓶の紙蓋を開け「まああんまり考えなくていいよね。いつか先生が教えてくれるよ。それより、昼休みサッカーやるでしょ。掃除終わったらボール借りるのよろしく。おれはゴール確保するから。」と言って苦手な牛乳を手品のような速さで飲み干した。給食を全て食べないと外では遊べない。そういう時代もあった。まだ平成一桁台である。

その時は理科よりも社会の方が好きだったし、得意だった。それでも「太陽のポジション」のことが頭を離れない。インターネットは普及しているものの、家庭で使用するには固定電話を止めなくてはいけない。下校すればこの疑問を解消する手立てはなくなる。やはり勇気をもって放課後に図書室によるしかない。本を頼りに疑問を解決しよう。

4階にある図書館に向かう。図書室のある西校舎4階は、3階建ての本校舎からは独立しており、いつも薄暗い。友達を誘うも「今日はザリガニ釣るから無理だわ。すまん」と断られた。近くでザリガニが大量発生している情報が入ってきたばかりだった。

独り言でザリガニに恨みを言いつつも、八つ当たりが過ぎると自ら苦笑していると4階についた。名ばかりのパソコン室前を通り、突き当りにある図書室に進む。途中、出っぱなしになっている水道を横目に「ここで誰か手を洗ったの?」と疑問に思う。それほどまでに日頃馴染みのない西校舎4階突き当り、人気はない。案の定空調設備のない図書室には先生も誰もいない。(誰もいない図書室に入れることに時代を感じる。)

本だなの間をすり抜け「科学」のコーナーまでやってきた。笑顔の地球が表紙絵の本を1冊手に取り椅子に腰かける。換気扇のカラカラという音だけが聞こえる。本にはポップな絵で地球がコミカルに目を回している様子が描かれていた。仲間たちも目を回している。その中でサングラス姿の太陽だけが、ニヒルに口角をあげている。太陽自身がサングラスするのか?眩しいのは君じゃなく、周りの地球たちだろと思いつつも解説を読む。『地球にいる私たちは、太陽が地球の周りを回っていると思いがちですが、本当はこの絵のように太陽を中心にして地球が回っているのです。これを地動説と言います。』はっ!!!動いているのは地球のほうで、太陽は止まっていたのか!と呟く。と同時に次のページを開くと、目を回している地球の横でそれを説明する人物A。人物Bの横には目を回している太陽がいて、人物Bは得意げにAを罵倒している。AもBも暗い表情。

怖い。子どもが読む本だから、状況を文章ではなく、絵で伝えているのかとも思う。ポップな絵が逆にその緊張感を強める。不気味だ。少しずつ鼓動が早くなる。脂汗がじ

んわりと額ににじむ。その時、廊下で物音がした。気のせいかもしれない。それでも気のせいと言える精神状態ではない。そっと廊下を覗く。誰もいない。気のせいかと再び図書館に戻ろうとした時、あるものが目に入る。水道だ。水が止まっている。「止めたのは僕か?」その瞬間汗が噴き出る。焦る。誰が止めたとか僕だろうがどうだっていい。ポップな絵が脳裏によぎる。早く降りよう。今日は帰ろう!早く!階段を下る。階段が長く感じる。

ザリガニが大量発生しているからこんなことになって…と階段を上った時と同様、下るときにもザリガニに責任を押し付ける。今回は苦笑がでない。

気持ち的にはやっとの思いで下駄箱にたどり着き家路につく。背中の中のランドセル、どこで背負ったのかすら思い出せない。いまだに鼓動は早いけど段々落ち着いてきた。今日の流れだと友達がザリガニを携えて登場するのを期待するが、それはない。

何事もなく家に着き落ち着く。発想が変わり、世界が変わった。その日は地球が回っている事実をなかなか受け入れられなかった。立っていても座ってみても、寝転がったりしても運動を感じない。本当に回転運動をしているのかと。そしてもう一つ。本の登場人物 A はどうなったのか。そして、思い出す。本を開いたまま帰ってきてしまったと。

翌日の動きは早かった。2時間目の授業時計の長針が20分を指す時を待って図書室へ向かう。西校舎の4階は静かだった。しかし、放課後とは違い、校庭から声は聞こえてくる。図書室の扉をゆっくりと引く。そして驚いた。1年生から6年生までたくさんの児童が図書室で過ごしていたのだ。驚きは僕だけではなかった。僕をみた児童も私の登場に驚いたようすだった。でもすぐにみんなは本の世界へ戻る。

昨日と同じルートを通り「科学」の本棚にやってきた。あった。地球の笑顔がちょっと怖い。開くと同時に人物 A を探す。A はコペルニクスと名乗っていた。コペルニクスは地動説を一生懸命説明する。最初は人物 B 同様に受け入れる者はいなかった。しかし、頁をめくると新しい人物がコペルニクスを支持する。彼らはガリレオ・ガリレイとケプラーと呼ばれている。最後の見開きにはコペルニクスが世界中から称賛されている様子が宇宙からの視点で描かれていた。そして、地球は回っている。

探究心が恐怖心を乗り越えて僕を突き動かした。誰かに与えられる学びではなく、自らの思いのままに知的好奇心を満たすことが人生に充実感をもたらす。図らずとも生涯の生業とする理科の内容でこのことに気付けた僕にとってこの経験は大きい。少しだけ怖かったけどね。

今年は6月21日土曜日に夏至を迎えました。夏至とは1日の中で太陽が出ている時間が最も長い日を指します。1年に1度迎える素晴らしい天体現象です。ここから12月の冬至に向けてだんだんと日が短くなります。日本では、民族文化的な観点から冬至と夏至の真ん中である春分と秋分は祝日になります。夏至は祝日にはなりません。しかし、天文学的には夏至は重要な日なのです。このことは3年生の理科で学習します。3年間の理科で最も壮大と言われる「理科・天体」が皆さんのことを待っています。義務教育のフィナーレを飾るために。私も楽しみでなりません。だって皆さんとコペルニクスの発見した地動説を共有できるのですから。

教科書にない学びは生活の中に散りばめられています。絵を描くのが好きな人はきっとリクエストに応えながら上手な描き方を追い求めていることでしょう。海外サッカーが好きな人は、選手の出身地なども頭に入っているのだと思います。音楽を奏でることに興味のある人は独学でギターを弾いているかもしれません。好奇心や探究心に勝る学習動機はないのでしょうか。自分の興味関心を大切に、深い学びを続けてください。皆さんが自分の好きなことを一生懸命話してくれる時、その話を聞くのが私は楽しいのです。※文章中「太陽のポジション」は地球の傾きが関係しています。3年生で学習しよう!

【保護者の皆さま】



先日、各担任から夏休みの三者面談の予定表を配布させていただきました。三者面談の同日程で午前中には学習教室も開設予定です。夏休み1週目で学習習慣のきっかけ作りととらえ、是非参加して頂ければと思っています。今後よろしくお願いします。